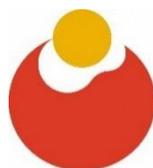


“幸せを運ぶコウノトリ” と共生する まちづくりビジョン



平成31年3月



雲南市

目次

はじめに.....	1
I. ビジョン策定の背景.....	3
1. コウノトリ.....	3
2. 生物多様性の保全.....	3
3. コウノトリと雲南市.....	3
II. ビジョン策定の目的.....	5
III. ビジョンの位置づけと期間.....	5
1. ビジョンの位置づけ.....	5
2. ビジョンの期間.....	5
IV. 基本方針.....	6
V. 個別の方針.....	7
1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり.....	7
(1) 学習・情報発信.....	7
(2) 生きものを育む農業の推進.....	8
(3) 生物多様性の保全.....	9
2. コウノトリがもたらす恵みの好循環.....	10
(1) 産業分野での活用.....	10
(2) イメージの活用.....	10
3. 継続的な活動を支える仕組み.....	11
VI. ビジョン推進に向けて.....	12
VII. 資料編.....	12

はじめに

日本は弥生時代以来、水田農業で発展してきました。平成8年に出土した加茂岩倉遺跡の39個の銅鐸の一部には、シカやトンボなどが描かれており、当時の自然環境の豊かさが表れています。また、古来より五穀豊穡は人々の願いであり、今でも様々な祭事が各地域で脈々と受け継がれています。

雲南市ではたたら製鉄の遺構も各地にみられ、その跡地は棚田となって水田農業が拡がり、たたら製鉄による産業の発展とともに人々の生活の営みを支えてきました。菅谷たたら山内は当時の姿をそのまま今に伝えています。

このように、雲南市の産業や人々の営みを支えてきた中心は水田農業であり、現在も雲南市の一次産業の中心となっています。しかし近年、農業の後継者不足が深刻になってきており、耕作放棄地が増加してきています。豊かな自然環境を必要とするコウノトリの飛来・営巣は、私達にこうした状況への警鐘を鳴らしているようにも思えます。

コウノトリは未来からの使者のように私達に様々なことを教えてくれます。本ビジョンは、コウノトリを象徴として、今後どのようなまちづくりが必要かをまとめたものです。



～コウノトリの魅力～

雲南市には、ホタルや特別天然記念物のオオサンショウウオなどの様々な希少生物が生息していますが、コウノトリの飛来・営巣はそうしたもの以上に人々を魅了しています。

なぜ、コウノトリはそこまで人々を魅了するのかを考えてみると、次の3つの要素が挙げられます。

①希少価値（特別天然記念物等）

コウノトリ（コウノトリ目コウノトリ科）は、特別天然記念物、国内希少野生動物種、環境省レッドリスト（絶滅危惧ⅠA類(CR)（ごく近い将来、野生での絶滅の危険性が極めて高いもの）に指定されています。

②視覚的効果（わかりやすさ）

コウノトリは翼を拡げると（約2m）にもなる大型水鳥で、視覚的にわかりやすいという特徴があります。

③良いイメージ（赤ちゃんや幸せを運ぶ伝承）

コウノトリは、赤ちゃんや幸せを運ぶ鳥として想起する人がたくさんいます。これはヨーロッパを中心に生息する「シュバシコウ」（コウノトリ目コウノトリ科）の伝承が日本に伝わったもので、そのイメージが広く浸透しています。

コウノトリはこれらの3つの要素を兼ね備えており、人々を魅了しています。

雲南市は、人の幸、自然の幸、歴史の幸、食の幸が豊かであり、これは日本の豊かさでもあります。雲南市では、「幸運なんです。雲南です。」をキャッチフレーズに「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」を進めていますが、コウノトリのイメージは雲南市のまちづくりに合致するものであり、コウノトリが与えてくれたチャンスを活かし、本ビジョンに基づきまちづくりに活かしていきます。

（雲南市ブランドメッセージ）

**幸運なんです。
雲南です。**

わたしたちの雲南市には
実にさまざまな幸があふれています。
美しい日本の原風景、自然の幸。
神話に彩られた史跡や文化遺産...歴史の幸。
毎日が新鮮、たわわな食の幸。
そして親（ちか）しく交わされる笑顔、人の幸。
変化が求められる時代に、
これだけの幸に恵まれた幸運に感謝して
このまちに生まれ、育ち、暮らすことに誇りを持ちたい。

幸運なんです。雲南です。

I. ビジョン策定の背景

1. コウノトリ

コウノトリは、大型の淡水魚をはじめ、ヘビやバッタまで、多様な餌をとる肉食の鳥です。現在では東アジアに2,000羽余りしか生息していない絶滅危惧種となっています。

かつて日本にはコウノトリがたくさん生息していましたが、1971年に国内個体群が絶滅しました。その後、平成17年（2005年）から兵庫県立コウノトリの郷公園が実施してきた野生復帰事業により、最後の生息地であった兵庫県北部の但馬地域を中心に繁殖個体群が復活しつつあります。（出典：「兵庫県立コウノトリの郷公園」パンフレット）

コウノトリが住みやすい環境は、豊かな生物多様性があるものとして全国各地で環境保全やまちづくりの指標・シンボルになっています。

2. 生物多様性の保全

「生物多様性」とは、「生きものたちの豊かな個性とつながり」（環境省ホームページより）と表現されています。生命は全て支えあって生きており、生物多様性を保全することにより人間もより豊かな営みができると考えられています。

雲南市においても、以前よりホテルの保護・普及啓発活動や特別天然記念物であるオオサンショウウオなどの保護に取り組んできました。

平成30年3月に策定した第2次雲南市環境基本計画においては、「自然と共に生きる」を基本目標の一つに定め、生きものや自然環境と共に生きていることを意識し、その保存と活用に努めていくことが重要であるとしています。

3. コウノトリと雲南市

コウノトリは、平成17年（2005年）から豊岡市で放鳥が始まりました。平成21年（2009年）3月には雲南市内でコウノトリ（個体番号※¹：J0006）が飛来した最初の記録が確認されています。

※¹ 個体番号：放鳥したコウノトリと野外で巣立ちしたコウノトリには、個体を識別するために、個体番号が書かれた足環と、異なる組合せの色の足環をそれぞれの個体につけています。

その後も継続的にコウノトリの飛来が確認されていますが、平成 29 年（2017 年）春に「げんきくん（個体番号：J0118）」と「ななちゃん※²（個体番号：J0047）」のペアが雲南市大東町大東下分で営巣をはじめ、4羽の雛が孵りました。これは、豊岡市を含む但馬地域周辺、徳島県鳴門市に続く国内 3 例目で、雲南市の豊かな自然環境を証明することとなりました。

しかし、その後母鳥「ななちゃん」がハンターの誤射により死亡したため、4羽の雛は兵庫県立コウノトリの郷公園で保護されることとなりました。無事に成長した雛は、平成 29 年（2017 年）7 月に雲南市大東町養賀で放鳥されましたが、市民にとってコウノトリを大切にしたい気持ちがより強くなるきっかけとなりました。

平成 29 年（2017 年）12 月には、「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会（事務局：国土交通省出雲河川事務所）」に加入し、地域の方、専門家や行政関係者で、コウノトリが住みやすい環境づくりなどについて意見交換を重ねています。

平成 30 年（2018 年）春にも「げんきくん」は、「ポンスニ（個体番号：J0051）」と前年と同じ場所で営巣し、自然営巣で国内最多の 4 羽が巣立つという新たな記録を残すことになり、あらためて雲南市の自然環境の豊かさを証明するとともに継続的な営巣が期待できる状況となりました。

市内の一部の小学校や図書館では、コウノトリを活用した学習が始まり、地元では地域を挙げて生息環境を守る活動が自発的に始まっています。こうした中、多くの市民からコウノトリとの共生や活用に関する期待が高まっています。



平成 29 年（2017 年）7 月 保護されたコウノトリの放鳥



「げんきくん」と雛

※² 「ななちゃん」という愛称は、西小学校の児童が命名して広がったもの。

II. ビジョン策定の目的

このビジョンは、市内外の共感と協力を得ながらコウノトリが継続的に営巣できる自然豊かな環境づくりに取り組み、コウノトリによってもたらされる恵みを活用して、雲南市総合計画に定めるまちづくりの基本理念「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」を実現していくとともに、雲南市のブランド価値の向上を図ることを目的に策定するものです。

III. ビジョンの位置づけと期間

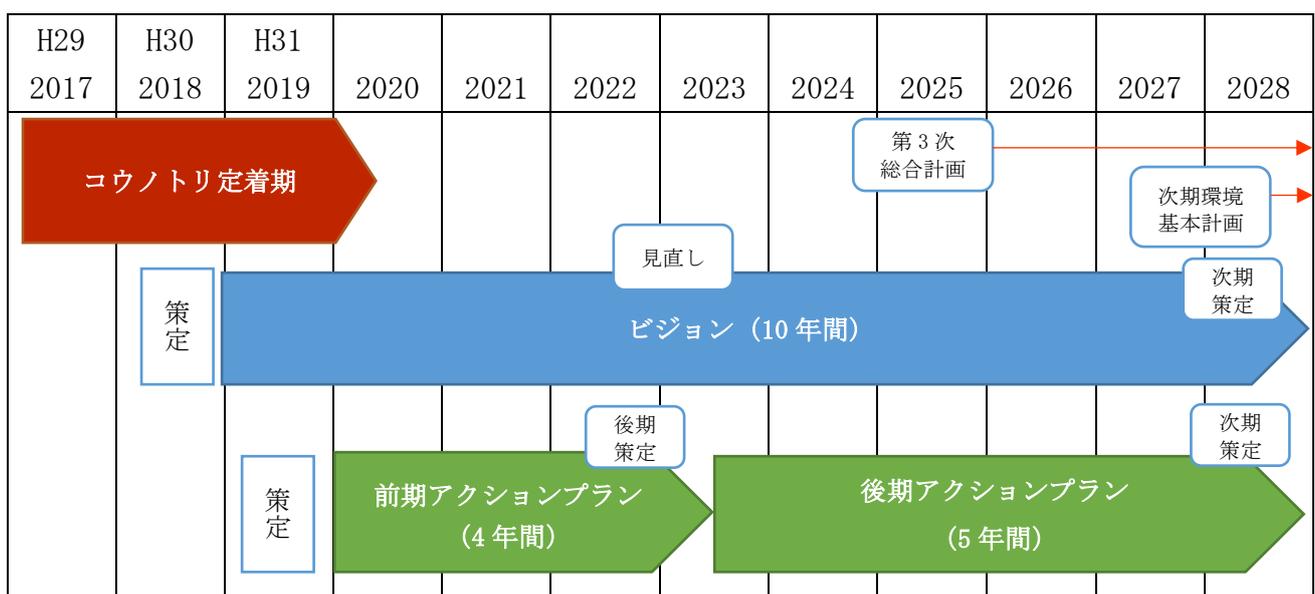
1. ビジョンの位置づけ

このビジョンは「雲南市総合計画」、「第2次雲南市環境基本計画」（平成29年度策定）や「第2次雲南市産業振興ビジョン」（平成26年度策定）などの各種計画の効果をより高めようとするもので、「雲南市まちづくり基本条例」に基づき、協働により取り組んでいくことを基本としています。

2. ビジョンの期間

平成31年度（2019年度）から10年間とし、5年後の平成35年度（2023年度）に見直しを行います。

また、本ビジョンを具体化し着実に実行するため、平成31年度（2019年度）にアクションプランを策定します。

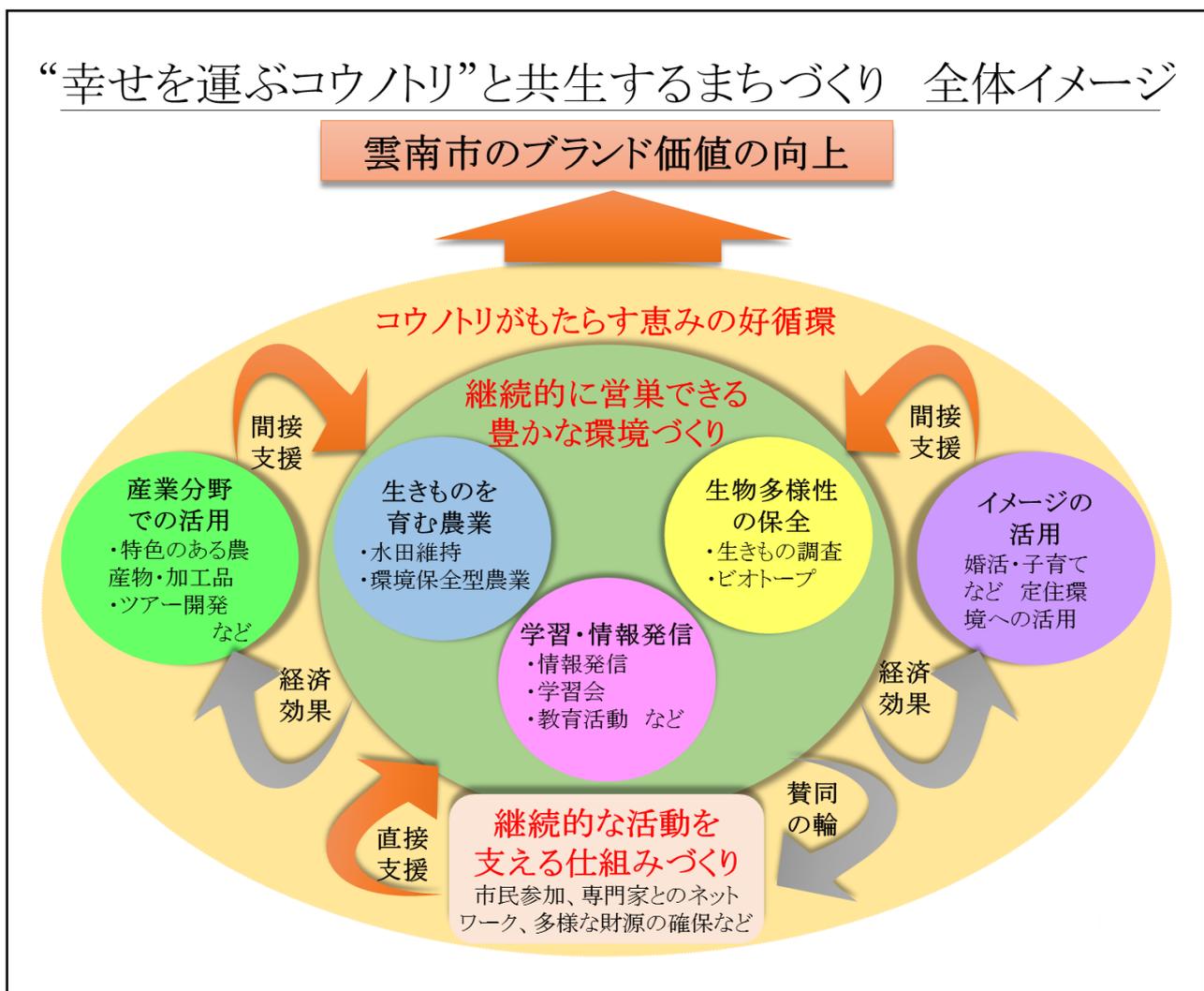


IV. 基本方針

“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくり

1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり
2. コウノトリがもたらす恵みの好循環
3. 継続的な活動を支える仕組みづくり

以上の基本方針に基づき“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくりを進め、雲南市のブランド価値の向上を図ります。



V. 個別の方針

1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり

コウノトリが継続的に営巣するためには、雲南市の豊かな自然環境を保全していくこととともにコウノトリが安全に生息できる環境づくりが重要です。コウノトリや生物多様性に関する理解を拡げ、深めるための学習会や情報発信等に取り組みます。また、核となる取り組みとして多種多様な生きものを育む農業を推進します。そして、その状況を評価するための調査などにより、生物多様性の保全に取り組みます。

(1) 学習・情報発信

コウノトリの生態や観察マナーをはじめ、生物多様性について、学習会の開催や情報発信をし、関心や知識を高めます。

- ①生物多様性に関する学習会を開催します。
- ②小中学校等で、生物多様性を学ぶ機会を設けます。
- ③コウノトリに関する情報を積極的に発信します。

コラム 雲南市立西小学校の取組「げんきくんとひな達応援プロジェクト」

雲南市立西小学校は、春殖地区と幡屋地区の子どもたちが通う学校です。

平成29年9月からスタートしたこのプロジェクトは、コウノトリ「げんきくん」とその子供たちを先生として、生きものへの愛着、生命の神秘、自然の素晴らしさ、生態系、人と生きものとの関わりや共存、ふるさと愛などを育むプロジェクトです。詳しくは西小学校ホームページをご覧ください。

取組の一例

●一人一枝運動

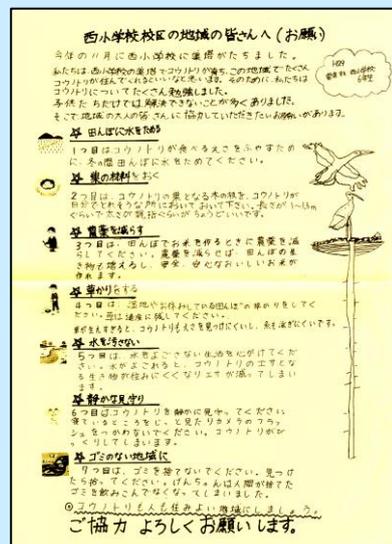
コウノトリのペアが巣作りしやすいように、巣の材料となる枝を校庭に集める。

●チラシ配布、ポスター掲示

コウノトリが住みやすい環境づくりの協力を呼びかける手書きのチラシやポスターを校区内外へ配布・掲示

●チャレンジ田んぼ

人にもコウノトリにも安全・安心な田んぼづくりに挑戦。平成30年9月には、コウノトリが餌をついばむ姿も確認されました。



校区内全戸に配布した手書きのチラシ

(2) 生きものを育む農業の推進

雲南市には、棚田などの耕作に労力を要する水田が多くありますが、農家の努力によって受け継がれてきたことが、コウノトリの飛来・営巣につながったと考えられます。

今後もコウノトリが継続的に営巣していくためには、水田農業を維持していくことが重要です。特に山際の水田で主に見られる水田の中の溝「よけじ」や、ため池が多くの水生生物の棲みかとなっており、生物多様性における重要な役割を果たしています。その上で中干しの時期の調整や環境に配慮した農業を推進します。

①生物多様性を育む水田農業を維持します。

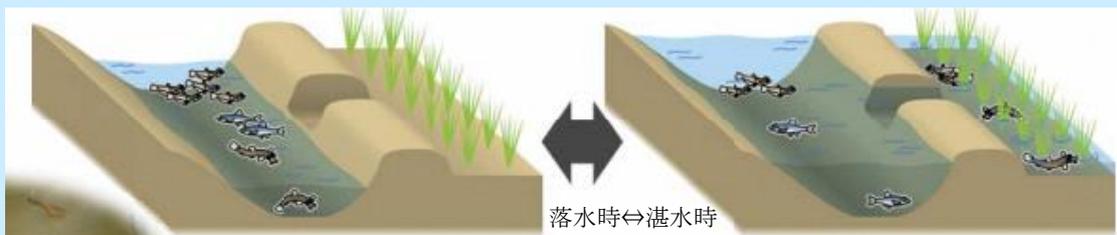
②環境に配慮した農業を推進します。

コラム 「よけじ」ってなに？

「よけじ」は排水促進や用水を温める目的で掘られた水田内の溝です。

この溝には、入水前や落水後にも水が溜まっていることが多いため、さまざまな水生生物が水田に水がない時期の生息場所として利用しています。

「よけじ」という呼称は主に大東町の一部地域で使われている慣習的表現です。



出典：「水田生態系の保全に視点をおいた整備技術の解説書」（農水省）より

(3) 生物多様性の保全

コウノトリや生物多様性を育む取り組みには、科学的な調査や分析が欠かせません。このため、専門家や地域自主組織、学校等と連携しコウノトリの行動分析や水田・ビオトープ※³の生きもの調査を実施します。また、それらの結果を公表していきます。

耕作困難な農地については、他の農地への悪影響も懸念されることから、耕起・水張りなどにより復田できるような管理（ビオトープ化）を推進します。

- ① 専門家によるコウノトリや生物多様性に関する調査を行います。
- ② 地域自主組織や学校等と連携し、水田やビオトープ等での生きもの調査を実施します。
- ③ 耕作困難な農地のビオトープ化を推進します。

コラム 「コウノトリは田んぼの苗を踏むのか？」

(資料提供：兵庫県立コウノトリの郷公園)

コウノトリは、主に水田で餌を採る生きものです。田植え後には、せっかく植えた苗をコウノトリが踏んでいるのではないかと雲南市の農家の間でも話題になっています。

兵庫県豊岡市周辺で平成17年度から平成19年度にコウノトリの水田における行動、特に田植え後の踏み付け等の水稻作に及ぼす影響について調査されていますので、その結果の概要をご紹介します。

1. コウノトリは苗をわざと踏みつけない

コウノトリが舞い降りる田んぼでは、田植え後に苗の踏み付けがありますが、コウノトリが苗をわざと踏みつけているところは見られませんでした。

2. 踏みつけられた株の全てが、生育に影響を受けるわけではない。

平成18年度の調査では、踏みつけられた25株のうち19株は周辺と同程度に生育し、6株も生育は小さいものの回復しました。平成19年度の調査においても、踏みつけられた17株のうち13株は周辺株と同程度に生育したことを確認しました。

3. コウノトリが苗を踏みつける可能性及びその影響

1羽のコウノトリが踏みつける苗は、調査結果から試算すると1時間当たり3~6株となります。踏みつけられた株の一部は欠株になる恐れがありますが、欠株が発生した場合でも周辺株が補償するため、欠株がそのまま減収につながることは少ないと推測されます。



※³ 生きものの生息地の意味。動物や植物が恒常的に生活できるように造成又は復元された場所を指すことが多い。生きものの種類によって、様々な種類のビオトープが存在する。

2. コウノトリがもたらす恵みの好循環

コウノトリは、「赤ちゃん」や「幸せ」を運ぶ鳥といったイメージが広く浸透しています。コウノトリをはじめとする生物多様性を育む取り組みは、経済などにも好影響をもたらすことが考えられます。継続的な取り組みを行うためにも、コウノトリによってもたらされる恵みの積極的な活用による好循環を生み出します。

(1) 産業分野での活用

コウノトリや生物多様性を育む取り組みの中で生産される農産物については、その理念、労力、ストーリーなどを消費者に伝えることにより、付加価値の高い農産物等となるよう推進します。さらに、雲南市農商工連携協議会等との連携により、それらの農産物を活用した商品開発を進めます。

また、専門家のアドバイスのもと、雲南市観光協会等と連携し、コウノトリ、オオサンショウウオ、ホタルなど、希少生物の観察を絡めたツアーの開発を推進します。

①生物多様性を育む農産品のブランド化※⁴を推進します。

②雲南市農商工連携協議会等による生物多様性を育む農産品を活用した商品開発を支援します。

③一般社団法人雲南市観光協会等による希少生物観察ツアー等の開発やガイド育成を推進します。

(2) イメージの活用

コウノトリは、赤ちゃんや幸せを運ぶ鳥としてとても良いイメージを持っている鳥です。環境関連をはじめ、定住や子育てなどの分野においてもコウノトリのイメージを幅広く活用していきます。

①雲南市におけるコウノトリのプロジェクトを表すデザインを検討します。

②コウノトリなど、生物多様性を育むイメージを様々な分野で活用します。

※⁴ここでは、ネーミングやデザインだけではなく、情報発信によりその価値が消費者に認知をされている状態を指します。

3. 継続的な活動を支える仕組み

生物多様性を育む活動を継続していくためには、多くの方々の参画や支援が必要となります。取り組みの状況や成果を広く公開し、共感者を増やします。併せて、市民や企業等が参加し主役となって支えていきます。

また、様々な活動がより効果的に連携できるよう専門機関や団体等とのネットワークを形成します。

さらに、ふるさと納税やクラウドファンディング※⁵などによる多様な財源を活用し、コウノトリや生物多様性を育む活動を資金面で支えていきます。

- ①市のホームページでコウノトリや生物多様性に関する活動を積極的に発信し、共感者を増やします。
- ②市民や企業等が参加し、主役となって支えていきます。
- ③専門機関や団体等とのネットワークを形成します。
- ④継続的な活動ができるよう、多様な財源を活用し、支えていきます。

コラム 「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」の取組

斐伊川水系は、中国山地から出雲平野へと流れ出る斐伊川や神戸川を始め、ラムサール条約登録湿地の宍道湖・中海など、国際的にも著名な水辺環境に恵まれた流域により構成され、我が国を代表する「ガン類」「ハクチョウ類」「ツル類」「コウノトリ」「トキ」等の大型水鳥類が安定的に生息可能な潜在性を有する国内有数の一級水系です。

そこで、国土交通省出雲河川事務所が事務局となり、中海・宍道湖沿岸の5市（米子市、境港市、松江市、出雲市、安来市）を中心に、関係行政機関・団体、専門家から構成される「斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」を平成27年に設立し、大型水鳥類が生息しやすい環境づくりと地域活性化を目指した取り組みを進めてきました。

平成29年に雲南市で「コウノトリ」の営巣や繁殖活動が確認されたことを踏まえ、平成29年10月に1市2町（雲南市、奥出雲町、飯南町）等を加え、新たな体制で協議会の活動を再出発することとなりました。

※⁵ クラウドファンディング：不特定多数の人がインターネット等経由で、共感するほかの組織等に資金提供や協力などを行うこと。

VI. ビジョン推進に向けて

本ビジョンを実現していくため、平成 31 年度（2019 年度）中にアクションプラン（行動計画）を策定し、具体的な行動につなげていきます。

VII. 資料編

資料 1. コウノトリについて

(1) コウノトリ

【鳥類分類】 コウノトリ目 コウノトリ科 コウノトリ属 コウノトリ種

【学名】 キコニア・ボイキアナ （和名：コウノトリ）

【生息地】 ロシア・中国・台湾・韓国・日本

(2) 保護上の位置付け

【文化財保護法】

特別天然記念物（天然記念物の中でも特に重要なもの）

【環境レッドリスト】

絶滅危惧 I A 類（ごく近い将来、野生での絶滅の危険性が極めて高い）

(3) コウノトリの絶滅と復帰

昭和 40 年（1965 年）	コウノトリ人工飼育の始まり
昭和 46 年（1971 年）	日本の野外でコウノトリが絶滅
平成元年（1989 年）	人工繁殖に成功
平成 11 年（1999 年）	「兵庫県立コウノトリ郷公園」が開園
平成 17 年（2005 年）	コウノトリ試験放鳥はじまる
平成 19 年（2007 年）	野外でヒナ誕生・巣立ち（国内で 46 年ぶり）
平成 24 年（2012 年）	初めて豊岡市外で繁殖。放鳥 3 世の誕生

資料 2. 雲南市とコウノトリの関係

(1) 雲南市内のコウノトリに関する動き (一覧)

近年の雲南市内におけるコウノトリと雲南市内の動きをまとめました。

年	月 日	内 容
平成 29 年 (2017 年)	3 月 16 日	げんきくん(J0118)とななちゃん(J0047)が造巢
	3 月 30 日	産卵確認
	4 月 26 日	ふ化
	5 月 19 日	誤射 (ななちゃん J0047)
	5 月 21 日	ヒナを保護
	7 月 7 日	愛称決定
	7 月 12 日	ヒナを放鳥
	9 月	西小学校で「げんきくんとひな達応援プロジェクト」が開始
	10 月 30 日	雲南市が「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」に加盟
	11 月 2 日	春殖地区振興協議会が雲南市へ「コウノトリと共生するまちづくり」のための指定寄附
11 月 28 日	西小学校校庭に人工巣塔を設置	
12 月 26 日	「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会 地域づくり部会 雲南圏域ワーキング」(以下、「雲南圏域ワーキング」)の開催	
平成 30 年 (2018 年)	2 月 19 日	げんきくん(J0118)とポンスニ(J0051)が造巢
	3 月 10 日	産卵確認
	4 月 13 日	ふ化
	5 月 25 日	足環装着
	6 月 8 日	西小学校児童が市長に対し、コウノトリ学習の成果を発表するとともにヒナの愛称をつけたいと要望。今後、営巣地の小学校で半分、残りは市民公募とすることに決定
	6 月 24 日	巣立ち (4 羽目)

年	月 日	内 容
	6月29日	愛称決定
	10月23日	加茂町神原地内に市内2基目となる人工巣塔を設置
	11月11日	「第1回雲南市環境会議」にて兵庫県立コウノトリの郷公園園長の山岸氏が同年9月15日に発行された「げんきくん物語」について講演
	11月22日	「雲南圏域ワーキング」の開催 コウノトリと共生するまちづくりビジョン（案）について
平成31年 (2019年)	1月28日	「雲南圏域ワーキング」の開催及び、「出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会」設立
	2月9日	「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくり学習会」開催
	2月12日	げんきくん(J0118)とポンスニ(J0051)が西小学校の人工巣塔で造巢
	3月4日	産卵確認

(2) 平成 29 年 (2017 年) の繁殖

ペア：げんきくん (J0118)、ななちゃん (J0047)

場所：大東町大東下分

月 日	内容
3 月 16 日	造巢
3 月 30 日	産卵確認
4 月 26 日	ふ化
5 月 19 日	誤射
5 月 21 日	ヒナを保護
7 月 12 日	ヒナを放鳥

●平成 29 年生まれのヒナ

個体番号	愛称	足環の色	性別	備考
J0173	春希くん	左：緑青、右：黄黄	オス	公募
J0174	うららくん	左：緑緑、右：黄黄	オス	公募
J0175	姫ちゃん	左：黒黒、右：赤黄	メス	西小
J0176	げんちゃん	左：黒黄、右：黄赤	オス	西小、2017. 8. 8 死亡

(3) 平成 30 年 (2018 年) の繁殖

ペア：げんきくん (J0118)、ポンスニ (J0051)

場所：大東町大東下分 (平成 29 年と同じ場所)

月 日	内容
2 月 19 日	造巢
3 月 10 日	産卵確認
4 月 13 日	ふ化
5 月 25 日	足環装着
6 月 24 日	巣立ち (4 羽目)

●平成 30 年生まれのヒナ

個体番号	愛称	足環	性別	備考
J0196	はるか	左：緑黄、右：黄赤	メス	公募
J0197	らいむ	左：緑赤、右：黄赤	メス	公募
J0198	永遠 (とわ)	左：緑青、右：黄赤	メス	西小
J0199	きらら	左：緑緑、右：黄赤	メス	西小

資料3. ビジョン策定経過

(1) “幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりプロジェクトチーム

プロジェクトチーム（PT）で議論を重ね、専門家等からの意見聴取を経て、素案としてとりまとめた。

・会議等の開催状況

月 日	会議等	概要
9月14日	第1回PT	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン策定とプロジェクトチームの設置について ・コウノトリについて ・ビジョン策定プロセスについて ・関連事業の洗い出し
10月1日	第2回PT	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンの構成について ・調査結果について ・課題の整理（SWOT分析） ・豊岡視察について
10月17日 ～18日	PT豊岡視察	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県立コウノトリの郷公園（兵庫県） ・豊岡市立コウノトリ文化館（豊岡市） ・豊島市立ハチゴロウの戸島湿地（コウノトリ湿地ネット）ほか
10月26日	第3回PT	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡視察の結果について ・ビジョンの概要について
11月21日	第4回PT	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン案について
11月22日	雲南圏域ワーキング	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンの策定について ・ビジョン案について
12月10日	第5回PT	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南圏域ワーキングの結果について ・ビジョン案について ・今後のスケジュールについて
2月25日	第6回PT	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの結果について ・コウノトリの状況と対応について

・プロジェクトチーム構成員

	所属部課	役職	氏名
チームリーダー	政策企画部地域振興課	課長	板持周治
サブチームリーダー	教育委員会文化財課	課長	板垣旭
委員	政策企画部政策推進課	主幹	松蔭佳子
委員	農林振興部農政課	主幹	山本泰司
委員	農林振興部農政課	主幹	小林弘典
委員	農林振興部林業畜産課	主幹	小林誠
委員	建設部都市計画課	課長	小村利之
委員	商工観光部商工振興課	統括主幹	奥井雅司
委員	商工観光部観光振興課	主任主事	伊藤恭将
委員	市民環境部環境政策課	副主幹	須谷大輔
委員	大東総合センター自治振興課	課長	景山修二
委員	教育委員会学校教育課	次長	佐藤慎治
委員	教育委員会文化財課	副主幹	高橋誠二
事務局	政策企画部地域振興課	主幹	鶴原隆
事務局	政策企画部地域振興課	統括主幹	板垣健一

・11月22日開催「雲南圏域ワーキング」構成員

所属等	役職	氏名
山陰中央新報社 出雲総局	総局長	舟越幹洋
公益財団法人 日本野鳥の会	副会長	佐藤仁志
島根県農業協同組合 雲南地区本部	本部長	加藤博樹
島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課	企画幹	星野由美子
春殖地区振興協議会	会長	石川幸男
幡屋地区振興会	会長	加藤一郎
赤川ホテル保存会	会長	松田勉
斐伊川漁業協同組合	代表理事組合長	山根成二
一般社団法人 雲南市観光協会	会長	塚本祐次
雲南市立西小学校	校長	和田邦子
元島根県立農林大学校長		川津史郎
島根わくわくサイエンス研究会	代表	秦明德

(2) 「“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくり学習会」の開催

ビジョンの策定に向け、コウノトリと共生するまちづくりについて学び意見交換をする場として開催し、約 50 名が参加されました。

開催日：平成 31 年 2 月 9 日（土） 14：00～16：00

主催：雲南市

会場：チェリヴァホール 3 階大会議室

内容：① “幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくりビジョンについて

② 講演 演題：「生きものと共生する地域づくり」

～大切な視点と、コミュニティビジネスの始め方～

講師：地域力創造アドバイザー 大和田順子 様

③ パネルディスカッション

地域力創造アドバイザー 大和田順子 様

春殖地区振興協議会 会長 石川幸男 様

島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課 企画幹 星野由美子 様

雲南市立西小学校 校長 和田邦子 様

④ 今後に向けたアイデア出し

(3) 「“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくりビジョン（案）」に関するパブリックコメント（意見募集）

・意見募集期間 平成 31 年 1 月 18 日～平成 31 年 2 月 18 日

・意見提出人数 5 人

・意見提出件数 10 件

幸運なんです。
雲南です。